

平成18年6月1日
原子力安全対策課
(18—15)
<21時15分記者発表>

敦賀発電所1号機の実出力低下について

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉；定格出力35.7万kW）は、定格熱出力一定運転中のところ、平成18年6月1日18時44分頃、復水器B室の復水電導度が上昇していることを確認し、その後、18時59分に電導度高警報が発報[※]（設定値0.2 μ S/cm）した。

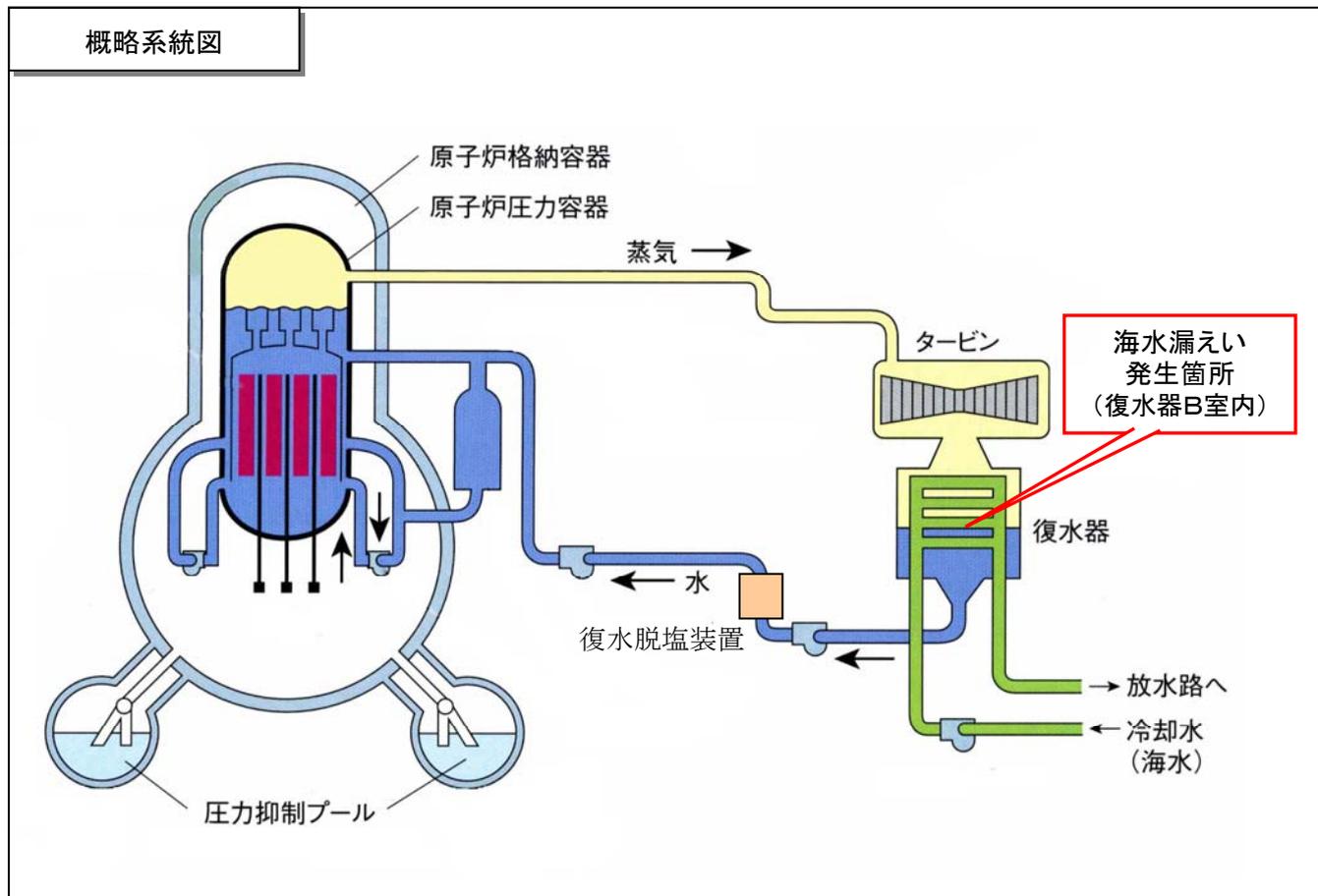
復水器B室内の復水について水質測定を行った結果、復水器B室内で海水漏えいが発生していると判断された。このため、今後出力を約50%まで降下させた後、復水器B室を隔離して点検を実施することとし、本日21時00分より出力降下を開始した。

なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

※復水器では、タービンを回した蒸気を海水を利用して冷却しているため、復水器細管から漏えいが発生した場合、海水により復水の電導度が上昇する。

問い合わせ先(担当：三木) 内線2354・直通0776(20)0314
--

給復水系 系統図



設備仕様
設備総数：1台
形式：表面接单流2区分式
冷却管外径：25.4mm
冷却管厚さ：1.245mm
冷却管総数：23,772本/2室
冷却管材質：アルミブラス

